

## 吉野川を釣る！



(吉野川河口の夜明け)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに270種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。

現在5種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

だいぶん月日も経ってしまいましたが、昨年の秋から冬の釣果をご紹介します。

## &lt;旧吉野川河口での挑戦【タチウオ編】&gt;



昨年秋に、**吉野川2018秋の上下流交流会～未来の森づくり～**に参加させて頂きました。

そのころ、川では魚が釣れない季節になり、新しい種類が釣れなくなってなやんでいたところ、懇親会の席で、たまたま地元の釣りに精通されている方とお話することが出来、いろいろな魚の話で盛り上がっていたところ、旧吉野川の河口ではタチウオが釣れると聞き、次の日に**挑戦**してきました。今回は二日酔いの中、下調べのつもりでいましたが、現地につくとタチウオの餌釣りの人が4～5人いて良い感じです。

夕方のまだ明るい時間帯なのにポイントが空いていません。港の角部分が空いていたので、近くにいたルアーマンに挨拶をして入れて貰いました。しかし、空いているだけあって、沖

に浮きがあり20mくらいしか投げることが出来ません。しかたがないので、まずはワームで障害物を確認（根掛かり防止）したうえで、半信半疑でシンキングプラグ（重くて沈む魚形ルアー）を取りあえず投げて見ます。

沈む夕日を見ながら、投げ続けていると隣のルアーマンにヒットし、90cm位の美味しそうなタチウオが釣れました。それをみて俄然やる気が出て、隣のルアーマンのヒットルアーを確認し、メタルバイブ（鉄板で出来たバイブレーションプラグ）に変更してやってみますが、当たりはきません。シンキングプラグに変更して投げていると、コツン、コツンと当たりが出るようになってきました。しかし、浮きのせいで20mしか投げることが出来ないでヒットに持ち込むことが出来ません。

その内、堤防の先端の釣り人が帰ったので、先端に移動しキャスト再開。ここは、障害物無しで、釣れる感じむんむん。釣り方は、フルキャストし一旦底まで沈め、アクションを加えながらリーリングし表層まで来たら、また底まで沈めるということを続け、底から表層までを隙間なく探る感じです。投げる方向も投げる度に変え、扇状に投げることによって全体を探るようにします。その内、当たりがありやっとヒットに結びつけることが出来ました。

私の地元の愛媛県中予では、最近タチウオが減りここ数年釣っていなかったため、1匹目は強い引きにびっくりしました。タチウオはヒットするとルアーを中心に円弧を描いて抵抗するので凄く重いです。しかし、数分すると力尽きるのか急に軽くなるのでバラしたのかと思いましたが、真っ直ぐになって寄ってきているだけですので、ずっと巻続けることがバラシを少なくするコツです。

上がってきたのは、80cmのまあまあのサイズでした。美味しく食べるため、しっかり野締めし、写真撮影（家で確認すると暗くてうまく写ってませんでした（泣））をして、キャスト再開です。先ほど釣れた場所を中心に探って、2匹目もゲットしました。こちらは、刺身が取れる**85cmのタチウオ**。グッドサイズでした。

まだまだ釣れそうでしたが、刺身が食べなくなったのと風が冷たくなってきたので終了としました。



※表面を覆っているグアニン（銀色）は時間がたつとにおいが出ますのでその際には、包丁の刃でこすってやると簡単に剥げます。

<タックルデータ>

ロッド：スズキロッド 10f（約3m）  
 リール：シマノ4000番  
 ライン：PE0.8号  
 リーダー：700か-ボソ7号  
 ルアー：シンキングプラグ28g

**タチウオの歯は、カミソリみたいで大変危険です。**

針を外す際は、フィッシュグリップとラジオペンチを使いケガをしないように気をつけましょう。

早速帰って、刺身にしましたがとっても甘くて美味でした。

タチウオの刺身ですが、普通の魚と違う形をしているので、難しいと感じますが鱗もなく素直な形をしているため、簡単です。表面に銀色の膜がありますが、新鮮であれば取る必要もありません。





## &lt;吉野川河口での挑戦【冬編】&gt;



ここ数週間、タチウオが1匹釣れたのみで、エソしか釣れなかったので、エソを数匹釣って干物を作るつもりで、河口に向かいました。現地についてみると水面にセイゴかメバルのボイル（小魚などを食べて波紋が出ること）があり、数投でマゴチ47cmがつれました。

また、少しすると当たりがあり、マゴチのような引き、寄せてくる途中から横に走り始める。大きなマゴチと思い慎重にテトラを移動しながら後を追いかける。50m程走られ何かおかしいなと思いつつ追いかけていたが沖にテトラが張り出している箇所まで来たので勝負をかける。すると、あらまあびっくり71cmのハマチでした。上げてみるとルアーがありません。口を開けて口の中を確認するとえらのところにルアーが掛かっていました。今回のようにルアーがえらに掛かると魚は息ができなくなり、引きが弱くなります。それでハマチにしては引きがおかしかったのかな？

その後も当りは続きエソ等が釣れましたが、十分な獲物だったのでこの日は納竿としました。

次は、昨年秋から冬に吉野川河口で釣れた魚について報告します。

10月～12月の河口には、カタクチイワシが接岸していて、それを食べるためにいろいろな魚が集まっていました。

そこで、数回朝夕にショアジギング（岸からジグ等のルアーで狙う釣り方）で狙ってみました。狙いは、朝夕のまずめ時（朝夕の薄暗い時間帯）ですが、曇っているときは、9時くらいになっても、ぜんぜん大丈夫です。



続いては、料理のコーナーです。まずは、①マゴチの刺身です。マゴチは扁平で骨がある場所が分かりにくいので、web等で捌き方を勉強してから三枚に下ろすことをオススメします。

次に②マゴチのすまし汁です。マゴチは姿に似合わず汁にすると絶品です。刺身を取る際に骨に身を多く残し、アラで出汁を取ります。そこに豆腐と別にとって置いた身を入れ最後にネギを入れると完成です。③は皮の湯引きです。ポン酢で酒のあてにぴったりです。





今回は、昨年秋の様子をご紹介しましたが、春（4～6月）も同じようにカタクチイワシが接岸しますので、同じような釣りが期待出来ます。みなさんも釣りに行ってみて下さい。

今回、3魚種ゲット。通算8魚種となりました。次は何を狙おうかな？

＜タックルデータ＞  
 ロッド：スズキロッド10f（約3m）  
 リール：シマノ4000番  
 ライン：PE1号  
 リーダー：700カボツ7号  
 ルアー：スピントールジグ30g

釣り人Nのお魚紹介コーナー



＜マゴチうんちく＞

スズキ目 カサゴ亜目 コチ科 コチ属 マゴチ

棲んでいるところ：本州以南の水深30m以浅の砂泥地、ヒラメよりも泥質を好む

大きさ：通常50cmほどだが最大80cm程に達するものもいる。

食べているもの：甲殻類、小魚を捕食している。

食べ方：天ぷら、唐揚げ、刺身（洗い）、煮付け、なんといっても汁（すまし汁・潮汁）旬は春から夏

・夫婦2匹でいると言われており、一匹釣れるともう一匹釣れることがある。

＜タチウオうんちく＞

スズキ目 サバ亜目 タチウオ科 タチウオ属 タチウオ

棲んでいるところ：世界中の温帯から熱帯にかけて分布。浅海から400mの深海。

大きさ：全長は、普通は1m以下が多いが最大2mを超え、体重5kgになる。

食べているもの：主に魚食であるがイカや甲殻類を食べることもある。

食べ方：刺身、塩焼き、煮付け、ムニエルなど。大きいものは、刺身が一番 年中美味しい

・名前の由来は、立ったまま泳いでいることから立ち魚、刀ににていることから太刀魚と言われている。

＜フリうんちく＞

スズキ目 スズキ亜目 アジ科 フリ属 フリ

棲んでいるところ：日本全国に生息。南は、東シナ海、北は、カムチャッカ半島、東はハワイ

大きさ：最大で150cm体重40kgの記録があるが、通常は1m程度。

食べ方：刺身、焼き魚、照り焼き、煮付け（ぶり大根）、カルパッチョ。旬は冬

・関西では、ツバス、ハマチ、メジロ、フリと名前が変わる出世魚。筆者の地元では、80cm未満は、ハマチ